



熊本県議会議員

高島和男がゆく

令和5年1月号



新年にあたり

令和5年が幕を開けました。皆さまにおかれましては輝かしい初春をお迎えのことと存じます。

昨年を振り返るとロシアによるウクライナへの軍事侵攻で世界状況は一変しました。連日映し出される悲惨な光景に震撼し、不条理がまかり通る現実と破壊を阻止できない無力への失望に打ちのめされました。先の大戦以後、営々と築き上げられた国際社会の秩序は瓦解し、激昂した為政者がさらに破滅的な行動に走らない保証はありません。

周囲に目を転じると、中国はアヘン戦争以来の体制を変えることにほぼ成功し、悲願である統一、そして覇権掌握を視野に触手を伸ばしています。さらに北朝鮮も同時多発を含めて多様なミサイル発射実験を繰り返しています。今次歴然としたのは、強権政治の国において自制心を失った指導者の決断如何でどんな国もウクライナのような事態になりかねず、我が国は極めて可能性の高い国々と隣接していることです。その他にも昨年はエネルギー高騰、物

価高、為替動向等、世界情勢が私たちの生活を直撃し翻弄されることを痛感しました。本年も予断を許さない緊張が続くでしょう。

さて近年県政においては自然災害からの復興という難しい課題が続きました。それが昨年以降局面が変わり、台湾の半導体メーカー『TSMC』の進出や「空港アクセス鉄道」等、将来の熊本県の方角性を占う話題が相次いでいます。

『TSMC』に関しては国の安全保障の観点から本県への立地が決定し、事業費の半分の約4,760億円が補助されます。また『TSMC』の進出決定以降24件の立地協定が締結され、年末にはソニーの新工場計画も明らかになるなど、肥後銀行の試算では今後10年間で県内に約4兆円の経済効果があると指摘しています。県議会も熊本県と意思疎通をはかってさらに県全体に波及効果が及ぶ施策を展開していかねければなりません。

また「空港アクセス鉄道」は、昨年未これまで検討していた豊肥本線から空港への分岐にあたって三里木、原水、肥後大津駅の3つの候補から肥後大津

ルートを選択することを知事が表明しました。今後線路の施設に向けて具体的なルートの詳細な調査を進めます。度々記しますが、私は次世代を含めた県民を念頭に県民以外の空港利用者の利便性向上も踏まえて議論してまいります。

県議会議員の役割は県民の最大幸福量向上のためのより良い政策を立案、提案、審議し実行・実現することです。今春は4年に1度の「審判の時」を迎えますが、本年も基本姿勢を堅持し地域の課題にも全力で取り組んでまいります。今年が皆様にとって幸多い年になることをご祈念申し上げて新年の挨拶と致します。



NTT西日本 総務常任委員会視察

最近DX＝デジタルトランスフォーメーションという言葉を見聞きします。DXとは情報通信技術の浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させることを云います。

コロナの際の10万円の給付金ははじめ、他国に比べてデジタル化が遅れていることが歴然としました。近年、日本企業の世界における存在感が落ちた背景の一因もIT化の遅れと云われます。国も「もしこの先DXが進まなければ2025年以降、最大で年間12兆円の経済損失の可能性があり」と警鐘を鳴らし、企業にもDXを促しています。

企業同様、県や市町村もDXを推進する必要があります。なぜなら住民に身近な行政を担う組織としてDXを推進して窓口業務を軽減し住民の利便性を向上させ、ペーパーレス化で業務の効率化を図り、行政サービスの更なる向上に繋がられるからです。

そこで11月21日（月）、委員長を務める総務常任委員会で県が民間と進めるデジタルコンソーシアムの事務局を務める九品寺のNTT西日本の熊本支社に行きました。そこでNTT西日本が運営する福岡の最新施設『リンクスパーク』とリモート視察を行いました。

よく『産学官』といいますが、時代は従来以上のスピードで目まぐるしく変化しています。新たな挑戦を具現化するには議会や議員も実態を理解しておく必要があります。「産学官＋議」が不可欠です。今後も最先端の動向に敏感に対処してまいります。



日吉地区 グラウンドゴルフ大会

12月3日、白川河川敷の『日吉の森グラウンド』で「第10回グラウンドゴルフ大会」を開催しました。

昨年もグラウンドゴルフは7大会全て予定通り開くことができました。コロナで懸念するのは元気な高齢者の健康です。外に出る機会が少なくなり、人と触れ合い話すことが減少したことによる体調が気になります。

県議会議員として県政に取り組むことは当前のこととして、県民・市民に喜んでいただく『場』を提供することも大事な役割と思っています。今年も笑顔で楽しんでいただける機会を創造します。

